



実業家。財界人。宇和郡喜佐方村(現、宇和島市)出身。18歳で上京し、明治法律学校(現、明治大学)に入るが1年余りで中退、日本橋の紙店で奉公の後、横浜の竹内商会石炭部に入り、明治30(1897)年、同商会を継承して独立し、横浜石炭商会を設立した。明治36(1903)年、英国から船を購入して海運業に進出、日露戦争の御用船徴用で海運業者としての基礎を築いた。その後、株の大暴落や北海道の木材事業の失敗など倒産の危機があったが、亀三郎は不屈の精神で乗り越え、明治44(1911)年に山下汽船合名会社を設立し、第一次世界大戦後には世界各地に支店を置く業界トップクラスの会社に発展させて「海運王」と呼ばれた。

亀三郎は、「自分が少しでも国家の役に立てる人間になれたのは母のおかげである」として人材育成、特に女性の教育に力を注ぎ、山下実科高等女学校(現、県立吉田高等学校)や第二山下実科高等女学校(現、県立宇和高等学校三瓶分校)を設立した。また、故郷の小学校や図書館への寄付や道路やトンネル、運河の建設など公共事業にも尽力した。

略歴

慶応3(1867)年4月9日	宇和郡喜佐方村河内に生まれる。
明治27(1894)年	横浜の竹内商会石炭部に入る。
明治30(1897)年	横浜石炭商会を設立
明治36(1903)年	英国船を購入して喜佐方丸と命名、海運業を始める。
明治44(1911)年	山下汽船合名会社を設立
大正3(1914)年	日本商船を合併
大正6(1917)年5月	山下汽船株式会社に改組 郷里の北宇和郡吉田町(現、宇和島市)に山下実科高等女学校を設立
大正9(1920)年	母親の郷里の西宇和郡三瓶村(現、西予市)に第二山下実科高等女学校を設立
大正15(1926)年	日本最大の傭船主となる。
昭和15(1940)年	軍人子弟教育機関(山水学園)設立のための寄付を行う。
昭和18(1943)年	内閣顧問となる。
昭和19(1944)年4月	行政査察使の勅命を受ける。
12月13日	78歳で永眠

(写真提供：山下真一郎氏)

〈関連図書〉

- ・山下亀三郎『沈みつ浮きつ』 山下株式会社秘書部 1943年
- ・吉田町誌編纂委員会『吉田町誌 下巻』 1976年
- ・山下新日本汽船社史編集委員会『社史 合併より十五年』 山下新日本汽船株式会社 1980年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第1巻 十河信二・二宮忠八・山下亀三郎』
愛媛県教育会 1983年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『県民メモリアルホール 人物探訪第1集』 愛媛県生涯学習センター 1997年
- ・『発掘えひめ人ー近代を拓いた101人ー』 愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P204~206, 44~49)

〈ゆかりのある場所〉…(P282~283, 75~77)